

岩手県に新拠点

宗門が花巻市に「とうわボランティアの家」



写真上=岩手県花巻市に新たな拠点として置かれた「とうわボランティアの家」。同下=連携して活動する地元ボランティア

宗門は先頃、東日本大震災の復興支援の拠点として、東北教区災害ボランティアセンターに続いて岩手県花巻市東和町北成島5区78-1・旧成島小学校(校舎2階)に「とうわボランティアの家」を開設した。

教室や図書室などを活用した同施設は宿泊が可能(定員60人)で、洗濯機や調理器具、寝具など付属設備のほか、近くの温泉施設を割引価格で利用できるなど、長期滞在者の受け入れ態勢を整えており、10月末まで延べ600人が同施設を拠点に活動を行った。

被害が甚大な同県沿岸部では支援者のための宿泊施設が不足し、活動者は地元や被災地でのボランティアセンターに登録して沿岸部で清掃作業などを行うほか、震災当初から支援活動を行う地元の民間団体「いわてゆいっこ花巻」と連携し、支援物資の提供や仮設住宅での傾聴活動などを行っている。

11月1、2日には「ゆいっこ」主催で、津波で壊滅的な被害にあった同県大槌町の仮設住宅で「お茶っこ飲み(お茶会)」とマッサージュ教室が開かれた。震災で断られた地域のつながりを取り戻そうと同町から花巻市に避難している被災者にも呼びかけ、同町出身者5人も同行。参加者はお茶の温もりに顔をほころばせながら、近況や復興への思いを語り合っていた。

波で流され、花巻市に避難する小林渉さん(71)敏子さん(69)夫妻は「ご近所の近況もまったくわからず、個人では訪ね歩くあてもない中、故郷の人と顔を合わせる場に参加でき、ボランティアの皆さんのおかげと感謝している。震災後、多くの支えをいただいたので、ほんの小さなことからでも恩返しをしていきたい」と話した。ボランティアの石口憲一さん(62)は「支援はまだまだ必要。多くの人にこの施設を有効利用してもらいたい」と語る。同施設の問い合わせは☎0198(29)5039、またはホームページ(とうわボランティアの家)で検索。

旧校舎利用 60人が宿泊可

兄弟と自宅などを津

(8面に関連記事)